

4/16
県民新聞

高浜避難完了16時間

県試算比 4時間50分長く

規制委

関西電力高浜原発（高浜町）で過酷事故が起きた場合、半径三十キロ圏に入る福井県、京都府の住民約十八万人の避難が完了するまでに最長十六時間かかるとの試算を原子力規制委員会が初めてまとめたことが十五日、分かった。県の試算より四時間五十分長かった。福井県と同様、国の参考資料に基づき算出した多くの自治体では避難時間が短くなる傾向があり、実際の避難を想定した条件で試算し直すよう求める声が上がりをうた。

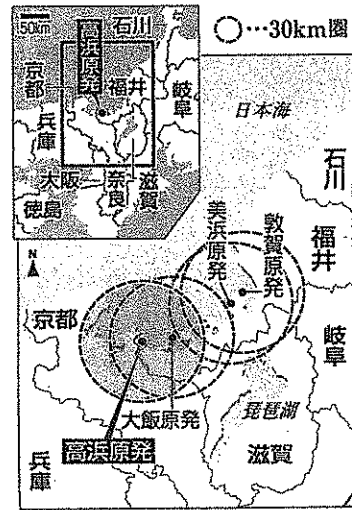
高浜など4原発の避難時間試算

原発	規制委試算 福井県試算からの増加分	30キロ圏の自治体	広域避難先
高浜	16時間 +4時間50分	福井、京都、滋賀	兵庫、徳島
大飯	16時間30分 +6時間40分	福井、京都、滋賀	大阪、兵庫、徳島
美浜	24時間20分 +8時間30分	福井、滋賀、岐阜	石川、大阪、兵庫、奈良
志賀	26時間20分 +12時間40分	福井、滋賀、岐阜	石川、大阪、兵庫、奈良

※避難時間は最長

試算で大きな差が出たのは、福井県の場合、三十キロ圏住民の九割しか対象でなく、三十キロ圏を出る際の汚染検査を想定していないことなどが原因。再稼働の手続きが進む中、福井地裁は十四日、安全対策の不備を指摘して高浜3、4号機の運転を認めない仮処分を決めたが、今回の試算で広域避難など防災面の課題も再浮上した形

だ。規制委の試算では、避難指示後、住民全員が三十キロ圏を出た後、汚染検査を受けて避難先の施設にたどり着くまでの時間を推計。最長だったのは渋滞対策を取



住民の9割30キロ圏出るまで

県「前提条件違う」

原子力規制委の試算について、福井県危機対策・防災課は「県の試算では前提条件が違いため、単純な比較はできない」としてい

る。住民の九割が三十キロ圏外へ出るまでの所要時間としたのは「国のガイドラインに沿って設定した」と説明。また、県の試算は昨年七月に公表したが、その後八月に汚染検査などの検査補地が決まったため、検査の所要時間などは試算に反映できなかったという。

らなかったケースで、福井側で十六時間、京都側で十五時間四十分かかる結果となった。一方、県の試算は京都府内の日本原子力発電敦賀、関電美浜、大飯の各原発に

出た。規制委は高浜のほか、県内の日本原子力発電敦賀、関電美浜、大飯の各原発に

についても試算した。各原発の広域避難先として石川や大阪、兵庫、奈良、徳島の五府県を想定。高浜以外では、美浜が最長で二十六時間二十分ばかり、福井県の試算からほぼ倍増した。福井、京都、滋賀の三府県は福井県内の原発を対象にそれぞれ個別に試算しているため、規制委は三府県の住民避難をまとめた形で試算。他の原発について試算する予定はないとしている。

自治体の避難時間
試算 原発事故が起きた時の住民避難にかかる時間を人口分布や道路条件などを基に算出するシミュレーション。国が交付金で必要な半径30キロ圏に入る21道府県のうち19道府県が実施した。マイカーの利用率や観光客の有無、鉄道・船舶の利用、災害による通行止めなどをさまざまな条件を設定し、避難に必要な時間を評価して避難の課題や効果的な手法を探るのが目的。